研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-154		17-091	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Association between smoking and alcohol-related behaviours: a time-series analysis of population trends in England.

時系列解析を用いたイギリスの人口動向から見た喫煙とアルコール関連行動の関連について

執筆者

Beard E, West R, Michie S, Brown J.

掲載誌

Addiction. 2017 Oct;112(10):1832-1841. doi: 10.1111/add.13887.

キーワード	PMID
喫煙率、ハイリスクな飲酒率、時系列解析	28556467

要　旨

目的：

月ごとの喫煙率、禁煙の動機や禁煙の試みがハイリスクな飲酒率、飲酒量を減らす動機や試みの変化に関連しているかどうかをイギリスで調べることである。

方法：

2014 年 4 月から 2016 年 6 月の間で、Alcohol and Smoking Toolkit Studies のデータを用いた。この研究では、毎月、家庭で対面調査した 16 歳以上 1,700 人が含まれる。外生変数を用いた自己回帰和分移動平均モデル（ARIMAX）を用いて、毎月ごとの喫煙とハイリスク飲酒率、禁煙及び減酒への高い動機、禁煙と減酒への試みとの関連をそれぞれ評価した。

結果：

研究期間内での平均喫煙率は 18.6%で、ハイリスクな飲酒率は 13%であった。時系列の平均喫煙率が 1%減少すると、2 カ月後の平均のハイリスクな飲酒率は有意に 0.185%減少していた（95%信頼区間、0.033－0.337、P=0.017）。禁煙及び減酒への高い動機（β=0.324、信頼区間、-0.371－1.019、P=0.360）、禁煙と減酒への試み(β=-0.026、95%信頼区間、-1.348－1.296、 P=0.969)では、統計的な有意な関連は認められかなった。

結論：

2014 年から 2016 年の間で、毎月ごとの喫煙率の変化はハイリスクな飲酒率と正の関連が認められた。禁煙及び減酒への高い動機、禁煙と減酒への試みには、統計的に有意な関連は認められなかった。